



目撃! にっぽん クマヤマ

放送日: 2018年6月24日 放送時間: 34分

対象校種 小学校高学年 中学校 高校

対象教科 社会 理科 道徳 総合

この番組の良さ

● マタギの計算された狩猟方法を知ることができる

「クマヤマ」とは、秋田県に暮らす狩猟民マタギが、冬眠から目覚めるクマを集団で追う伝統猟です。番組では、クマを追手と待手の二手に分かれてはさみ撃ちするシーンが見られます。2回目の撮影では超大型のクマの足跡を発見した後、マタギの言葉で言う「タカブ」=「どうしてもこっちにいきたいと思う方向に進むと獲れること」が現実となり、体重200kg以上のクマを仕留めることができました。

● マタギの伝統文化と、近年のクマの生態の変化を知ることができる

ゼンマイを採る際は「男ゼンマイ」を採らないこと、山から持ち帰ったおにぎりを食べると風邪をひかないこと、クマの胆のうの使い方、「マタギ勘定」という、獲物を皆で平等に分ける集落の掟など、脈々と受け継がれてきたマタギ伝統文化を知ることができます。一方で、近年クマが大型化し、人里に下りてくるが増えたなど、人間がクマの生態にもたらした変化についても考えさせられます。

番組活用のポイント

● 狩猟民の伝統文化を学ぶことができる

狩猟民マタギに代々受け継がれてきた狩猟方法や作法などを、今回初めて許された密着取材の映像から、詳細に学ぶことができます。これは、道徳の「伝統と文化の尊重」や小中学校の社会科における「地域の伝統文化」、理科の「生物と環境」の学習で活用できます。

マタギの数は激減し、クマの狩猟だけでは生活できず、出稼ぎに出て収入を得る人たちもいます。それでも「クマヤマ」の時期になると必ず地元に戻ってきて狩猟を行う理由を、マタギの副頭領が明瞭に語ってくれます。このことから、地域の伝統文化を守り続けることの意義について考えることができます。

● 近年問題となっているクマの出没について知ることができる

2017年度、秋田県でのクマの目撃件数は1303件で、クマの生活環境に異変が起きていると言われていています。杉の植林でクマの食べ物がなくなったことや、民家に放置された柿や栗が栄養豊富なエサとなっていることなどです。人を襲うこともしばしばで、マタギの役割も、かつての山中での狩猟から檻に捕らえて殺す「有害駆除」へと変化してきました。「檻に入った弱ったクマを至近距離で撃ちたくない」「できれば有害駆除はやりたくないが、困っている人がいればしかたがない」と話すマタギの言葉に、クマへの愛情や畏敬の念を感じます。

「なぜクマが民家の近くに出没するのだろうか」と生徒に発問することで、近年の地球温暖化などによる環境変化や少子高齢化による限界集落の出現など、多面的に考えさせることができます。それが理科や社会科などの横断的な学習につながるという良さがあります。



執筆者
能代市立能代南中学校
教諭 嵯峨静人